



昭和電線グループ 2022年3月期 第2四半期

決算補足説明資料 Nov 4, 2021

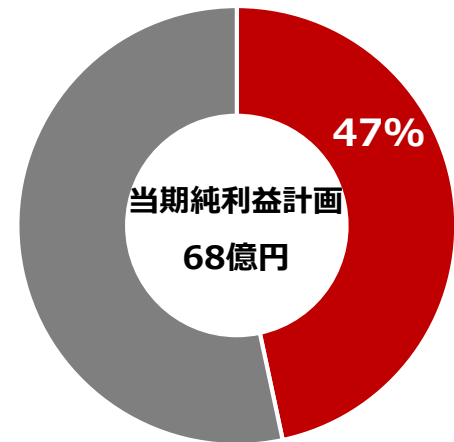
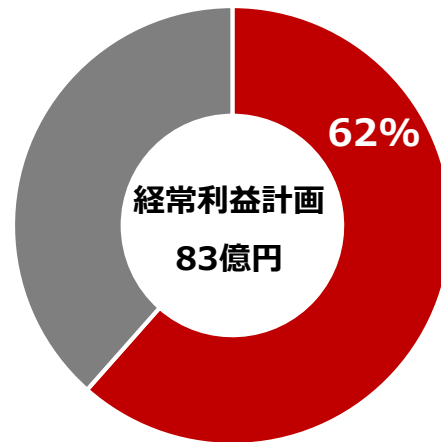
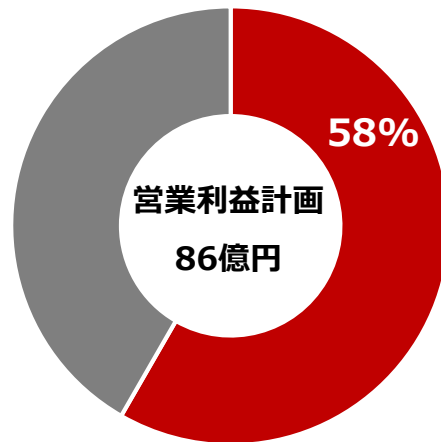
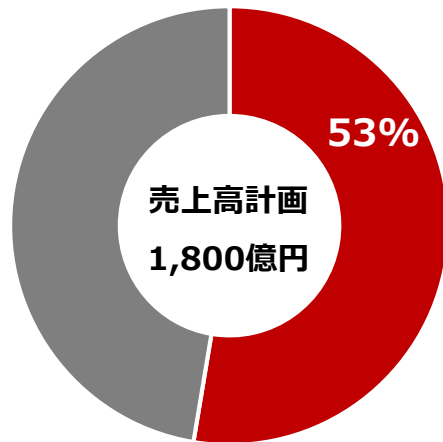
昭和電線ホールディングス（株） 東証一部（5805）

# 2022年3月期 第2四半期決算総括

**業績：一部で需要の減速が見られたものの前年同期比で増収・増益**

- エネルギー・インフラ事業**：材料費高騰の影響があったものの、建設関連向けは需要が減少する中で大口案件向け出荷もあり堅調に推移。電力インフラ向け需要は引き続き旺盛。
- 通信・産業用デバイス事業**：通信インフラ向けは5G需要等がありながらも、材料費高騰の影響あり。産業用デバイスはサプライチェーンの混乱がありつつも、海外を中心に家電や事務機器の需要が回復。
- 電装・コンポーネンツ事業**：自動車減産の影響があったものの、前年同期比で自動車および電子部品向け高機能製品の需要は回復。また、銅価上昇の影響もあり。

## 2Q進捗率（売上高/営業利益/経常利益/四半期純利益） ※対期初計画



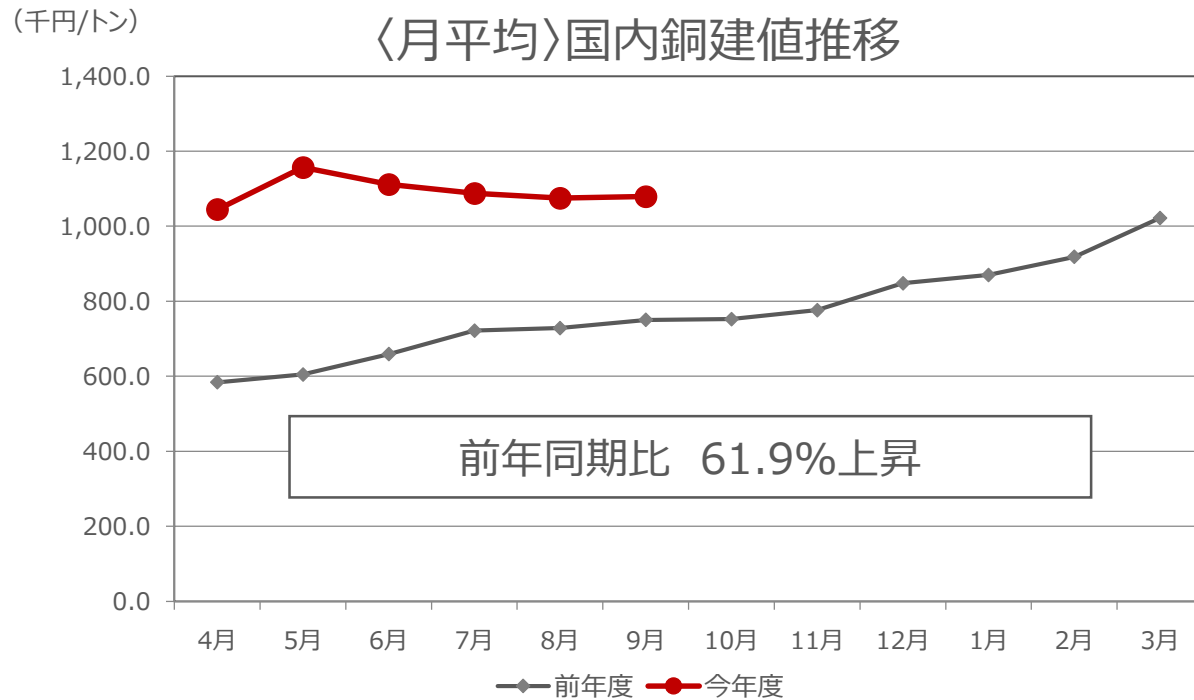
# 2022年3月期 通期業績計画の修正

- 業績の進捗を受けて、通期業績計画を修正。

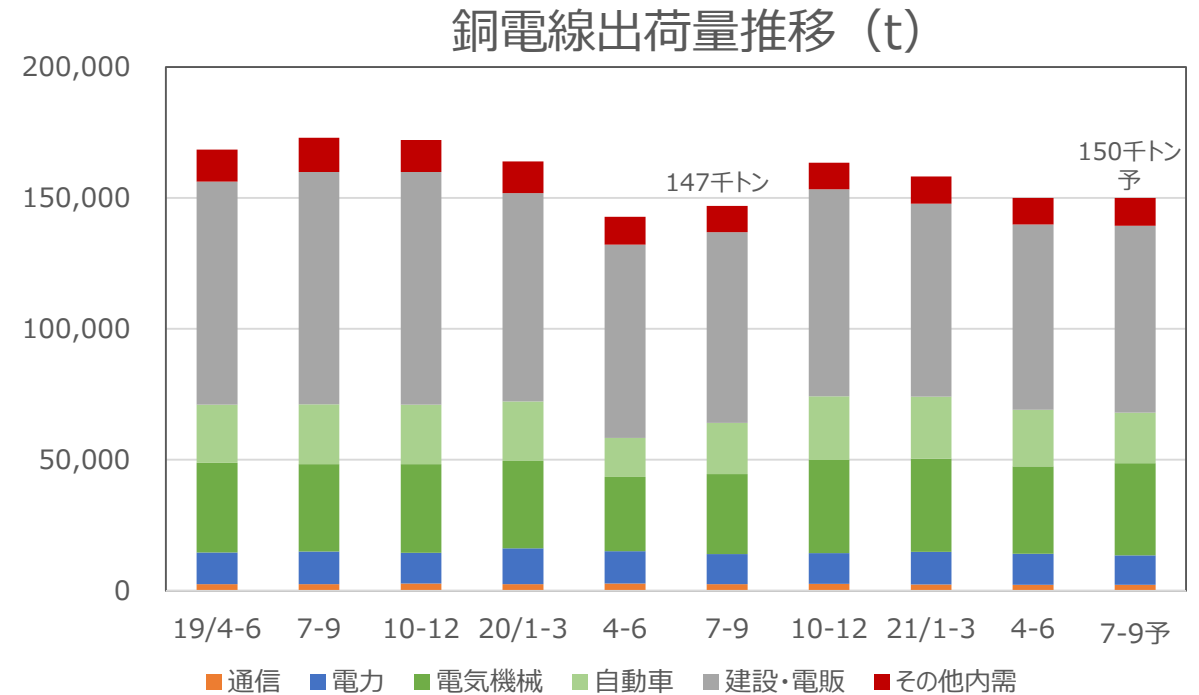
(単位：億円)	2020年度 実績	構成 %	2021年度 5/13計画	構成 %	2021年度 修正計画	構成 %	修正額	修正幅 %
売上高	1,617	—	1,800	—	1,950	—	+150	+8.3%
営業利益	76	4.7%	86	4.8%	95	4.9%	+9	+10.5%
経常利益	78	4.8%	83	4.6%	95	4.9%	+12	+14.5%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	50	3.1%	68	3.8%	76	3.9%	+8	+11.8%

# 国内銅建値／銅電線出荷量の推移

- 国内銅建値は、中国の景気回復もあり高止まり傾向。
- 国内の銅電線出荷量は、建設・電販の回復が弱いものの電気機械・自動車を中心に回復基調。  
(前年度比3.6%増)



出所：(社団) 日本電線工業会データより



出所：(社団) 日本電線工業会データより

## 2Q 連結損益計算書

- 業績は想定どおりに推移し、前年同期比で増収・増益となった。

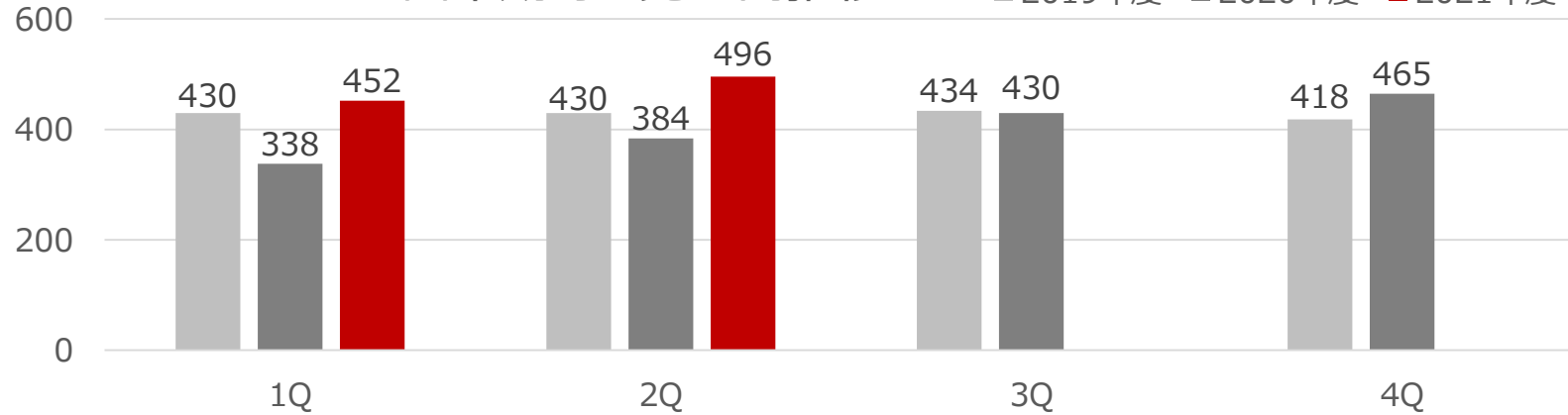
(単位：億円)	2019年度 2Q実績	2020年度 2Q実績	2021年度 2Q実績	構成 %	前年同期比 %
売上高	860	722	947	—	31.2%
売上総利益	117	93	122	12.9%	30.7%
営業利益	43	24	50	5.3%	107.6%
経常利益	40	26	51	5.4%	95.5%
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	29	18	32	3.3%	73.9%

# 四半期業績推移

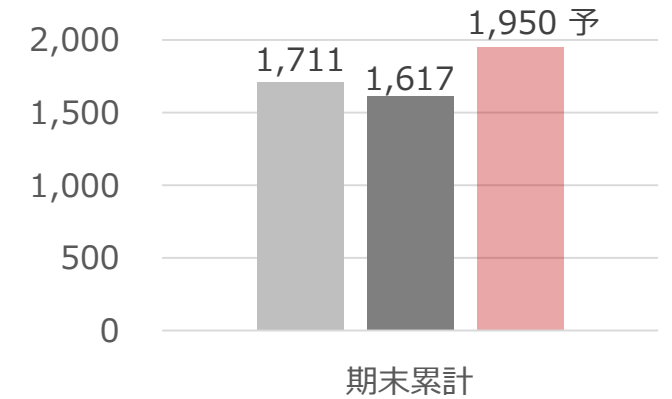
(単位：億円)

## 四半期毎の売上高推移

■ 2019年度 ■ 2020年度 ■ 2021年度



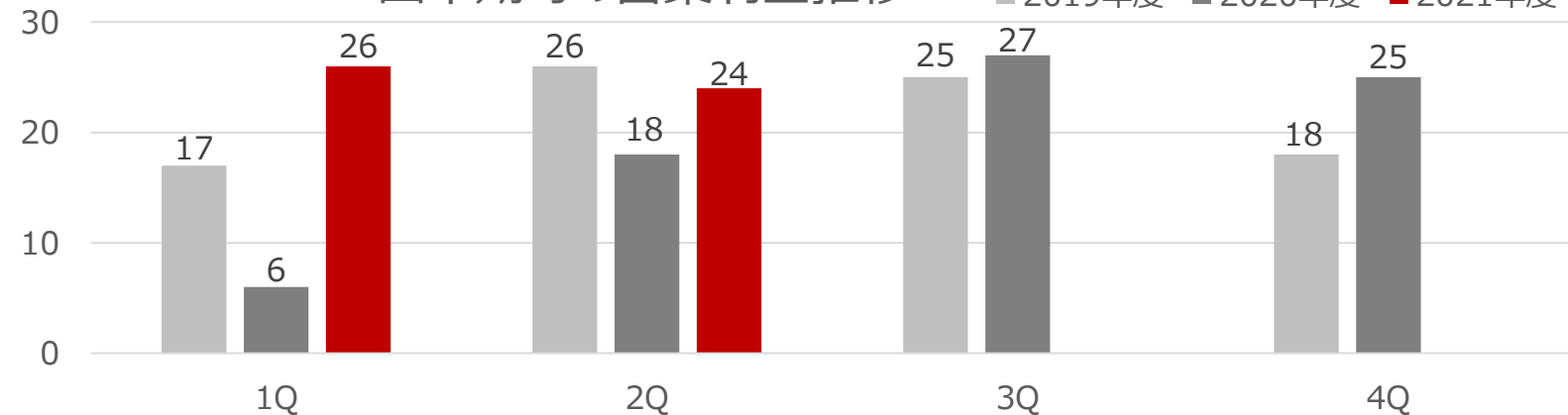
## 期末累計の売上高推移



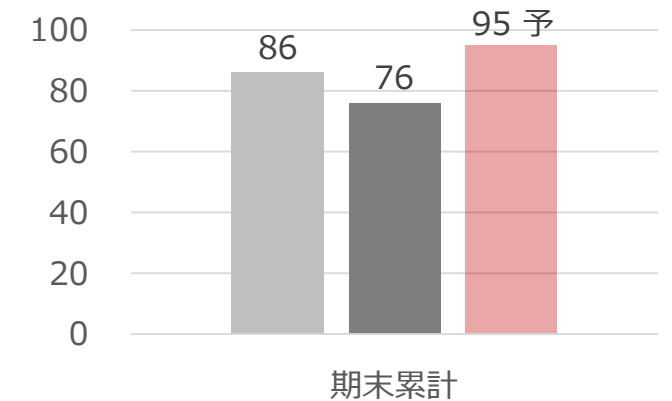
(単位：億円)

## 四半期毎の営業利益推移

■ 2019年度 ■ 2020年度 ■ 2021年度



## 期末累計の営業利益推移



# 貸借対照表 (前期末比較)

・自己資本比率は36.1%となった。

(単位：億円)

	21/3/31	21/9/30	増減		21/3/31	21/9/30	増減
現金・預金	42	36	△6	支払手形・買掛金	224	269	+46
受取手形・売掛金及び契約資産	439	497	+58	短期借入金・社債	247	253	+6
棚卸資産	215	251	+35	その他	159	170	+11
その他	57	63	+6	流動負債 計	629	692	+63
流動資産 計	753	846	+94	長期借入金・社債	121	136	+15
有形固定資産	397	410	+13	その他	63	62	△1
無形固定資産	14	13	△1	固定負債 計	184	198	+15
投資その他の資産	131	134	+3	負債 合計	813	890	+77
固定資産 計	542	557	+15	資本金	242	242	0
				資本剰余金	57	57	+1
				利益剰余金	106	132	+26
				その他	77	81	+5
				純資産 合計	482	513	+31
資産 合計	1,295	1,403	+108	負債・純資産 合計	1,295	1,403	+108

## セグメント情報 (過去3期比較)

- ・ コロナ禍の影響は限定的。
- ・ 3セグメントとも5%前後の営業利益率となった。

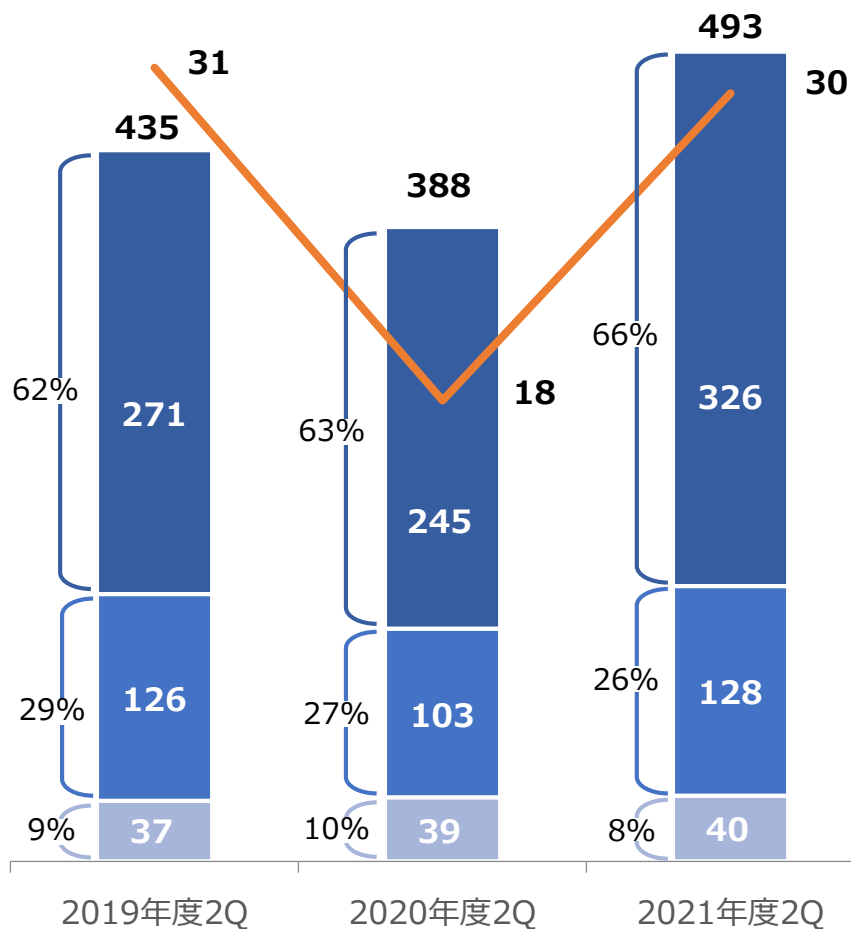
	2019年度 2Q実績		2020年度 2Q実績		2021年度 2Q実績	
	売上高	営業利益 (利益率%)	売上高	営業利益 (利益率%)	売上高	営業利益 (利益率%)
(単位：億円)						
エネルギー・インフラ事業	435	31 (7.1%)	388	18 (4.6%)	493	30 (6.2%)
通信・産業用デバイス事業	153	11 (7.5%)	127	8 (6.5%)	139	9 (6.3%)
電装・コンポーネンツ事業	248	2 (0.8%)	183	1 (0.6%)	295	14 (4.7%)
その他 (内 新規事業)	24 (14)	△2 (△1)	23 (16)	△3 (△0)	19 (14)	△3 (△0)
合計	860	43 (5.0%)	722	24 (3.3%)	947	50 (5.3%)



# エネルギー・インフラ事業 2Q業績

■ 建設関連 ■ 電力インフラ ■ 免震・その他 ■ 営業利益

(単位：億円)



※2021年度第2四半期実績のみ新会計基準を適用しております

## 実績

◆ 建設関連 汎用電線	建設関連需要が減少する中で、汎用電線は、大口案件向けの出荷を伸ばした。
◆ 免震・その他 免震装置、制振・防振	
◆ 電力インフラ 電力ケーブル、工事、電力機器部品(SICONEX®)	電力強靱化・老朽化更新・再生可能エネルギー連系の需要が引き続き旺盛だった。

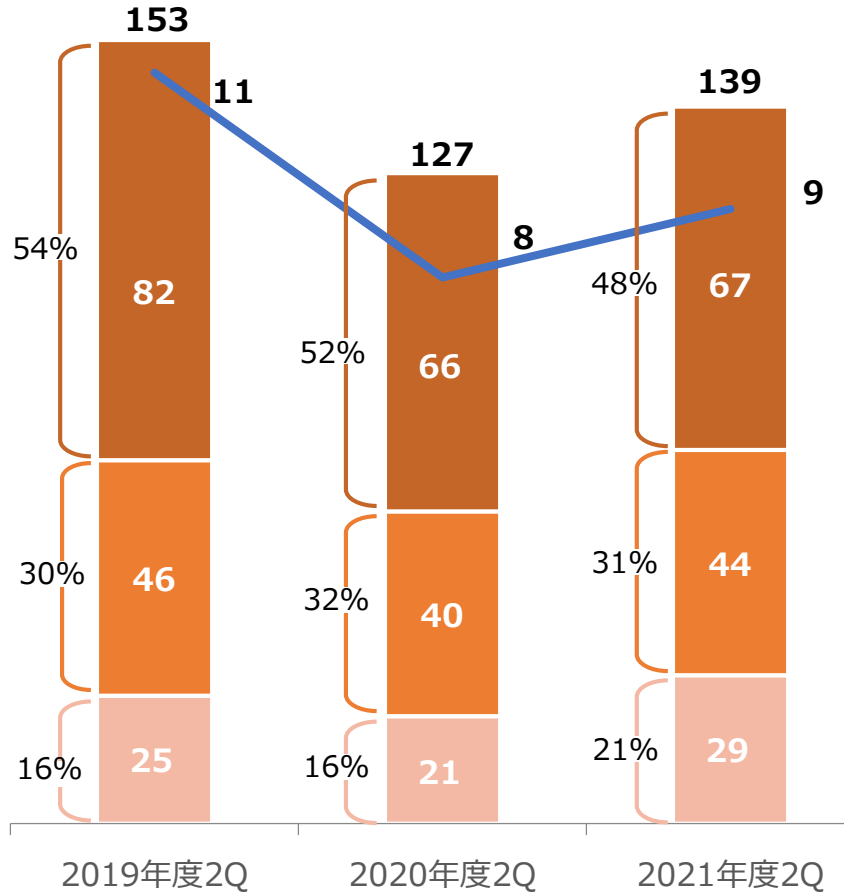
## トピックス

9月21日プレスリリース	(株)協和エクシオ※との洋上風力発電に関する電力工事事業の業務提携についてのお知らせ ※現エクシオグループ(株)
10月1日プレスリリース	昭和電線グループ電線・電材購入ECサイト「蛙屋(かえるや)」10月1日オープン

# 通信・産業用デバイス事業 2Q業績

通信ケーブル ワイヤハーネス 精密デバイス 営業利益

(単位：億円)



※2021年度第2四半期実績のみ新会計基準を適用しております

## 実績

◆通信ケーブル(建設)  
メタルケーブル、光ケーブル  
LANケーブル

通信インフラの増強等による好要因があるものの、材料費高騰の影響を受けた。

◆通信ケーブル(通信インフラ)  
メタルケーブル、光ケーブル

◆ワイヤハーネス  
(家電・産業機器 他)

サプライチェーンの混乱がありながらも、海外を中心に家電・事務機器の需要が回復した。

◆精密デバイス (複写機 他)

## トピックス

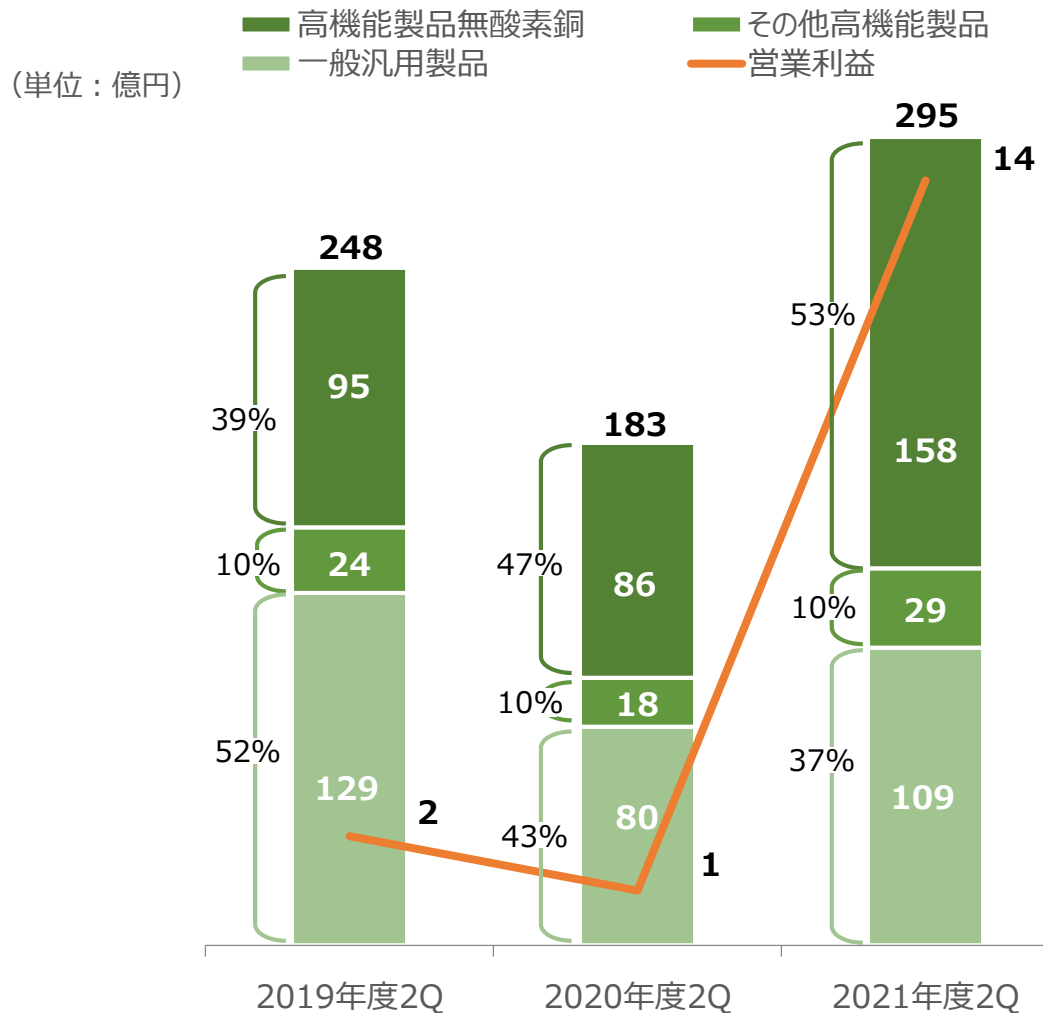
8月31日プレスリリース

高速LAN用ケーブル新ブランド戦略導入について『FLANTEC™ (フランテック)』始動

9月27日プレスリリース

連結子会社間のメタル通信ケーブル製造事業の譲渡に関するお知らせ

# 電装・コンポーネンツ事業 2Q業績



※2021年度第2四半期実績のみ新会計基準を適用しております

実績	
◆高機能製品無酸素銅(自動車、電子機器 他) 無酸素銅MiDIP®	自動車および電子部品向け高機能製品の需要が回復した。
◆その他高機能製品(自動車、電子機器 他) 銅合金、高機能巻線	
◆一般汎用製品(電気機械 他) 汎用巻線	重電向け等の汎用巻線はサプライチェーンの見直しによる国内需要を取り込んだ。

トピックス	
9月29日化学工業日報掲載	MiDIP®をはじめとする高機能製品のさらなる強化と川下展開の展望



本説明資料に記載されている将来の業績予測値は、公表時点で入手可能な情報に基づいており、潜在的なリスクや不確定要素を含んでおります。

このため、実際の業績は、さまざまな要素により、記載された予測値と大きく異なる結果となり得ることをご承知おき下さい。

実際の業績に影響を与える要素としては、経済情勢、需要動向、原材料価格・為替の変動などが含まれます。  
なお、業績等に影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。

## お問合せ先

昭和電線ホールディングス（株）

経営戦略企画部 戦略課

TEL：044-223-0520

E-mail：kouho@hd.swcc.co.jp

昭和電線ホールディングス（株） 東証一部（5805）